

中心市街地中核ホテル再生支援事業補助金を含む補正予算など、原案のとおり可決

令和2年第6回定例会を11月27日（金）から12月17日（木）までの21日間の日程で行い、市長より報告1件、議案36件が上程され、いずれも原案のとおり可決し、議員提出議案2件についても、原案のとおり可決しました。

主な議案の審議内容

令和2年度鹿角市一般会計補正予算（第10号）

質問

中心市街地中核ホテル再生支援事業について、飲食店等が減っていく中で、中心市街地の将来像をどのように考えているか。また3億円という助成額をどう考えているか。

答弁

「まちづくり」の方向性として地域コミュニティを維持した上で都市機能を中心市街地に集約し、「まちづかい」を高める考えから、モッセや花輪駅前を整備を展開してきた。中心市街地活性化プランにおいても、中核ホテルが存在することを前提に、その集客力を生か

してさらなるにぎわいの創出を図っていく。また、新たな雇用の場の確保としてホテルを再開していただける新しい企業を誘致してきたという考えで進めてきたもので、企業誘致という観点から見た場合、雇用としては35名、再開に伴う経済波及効果は年間5億8000万円と推計され、商店街のにぎわい創出や中心市街地活性化の観点からも今回の助成額は必要な支援であると考えている。

質問

中心市街地中核ホテル再生支援事業について、今後同じ事例が発生した場合に支援してもらえるか。

答弁

今回の支援は民間ホテルへの

再開支援という枠を超え、市の中心市街地の経済再生と活性化を担う公益上必要な事業と位置付けている。支援のスタンスとしては、地方自治法にのっとり、客観的に公益上必要と認められる規定を順守し、市民に及ぼす影響・ダメージ等を勘案しながら、都度判断していく。

指定管理者の指定について（湯の駅おおゆ）

質問

これまでの累積赤字等もあると思われるが、その赤字の取り扱いはどうなるのか。また、指定管理者が変更になった理由は。

答弁

累積赤字の解消を図るためさまざまなイベント等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかったことから、かなり厳しい状況となっ

ている。指定管理者については、これまでノリット・ジャポン社の現地法人として株式会社恋する鹿角カンパニーが運営してきた。なお、累積赤字は持ち越したまま株式会社恋する鹿角カンパニーが経営していくが、運営コスト等を見直しながら黒字化を図っていく。

今回の指定管理者公募に当たっては、株式会社恋する鹿角カンパニー1社のみの応募であり、これまで培ったノウハウを生かした運営に期待したい。



湯の駅おおゆ